

2018
9 / 7
Vol. 675



撮影・屋比久光史

あなたの夢を、暮らしを応援する住宅情報紙

SHIMPO housing guide

新報住宅 ガイド

こんな家に住みたい 第621回 北谷町 Aさんの家

素材・様式が混在した チャンプルーな空間 時代を先駆ける ユニバーサルデザイン

生活スタイルの変化を許容し、
豊かな家庭、生きる知恵を育む「養の家」

毎週金曜日発行

週刊カフウ

「かふう」とは果報・幸運にめぐり合うこと。



<http://www.kahu.jp>

- 5. 伊礼智の「僕の好きな風景」
- 6. どうする住宅資金
- 10. 石獅子探訪記
- 11. この人に聞く
- 12. かふう住宅講座
- 14. 気になる土地の評価
- 19. かふう週報
- 20. ペット
- 21. ハイサイ「うちな〜ガーデン」
- 22. 空中散歩「天空から眺める美ら島風景」

琉球新報

発行／琉球新報社
〒900-8525 沖縄県那覇市泉崎1-10-3
Tel.098-865-5014

かふう

企画・編集・制作／(株)正広コーポレーション
〒900-0004 沖縄県那覇市銘苅1-11-9 3F
Tel.098-941-8112

軍用地買取ります

売主様とのお約束!

当社買取で、仲介料はナシ!!
年間100件以上の取引
実績で即断即決!!

カミヤプロ

検索

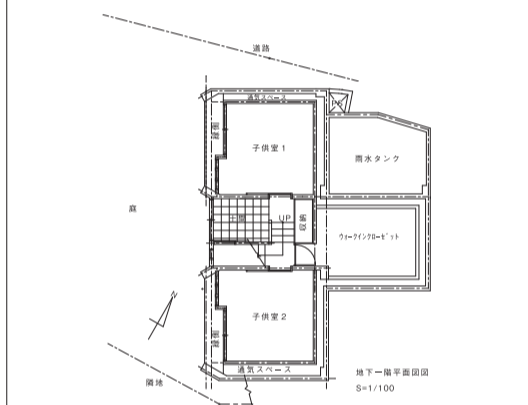
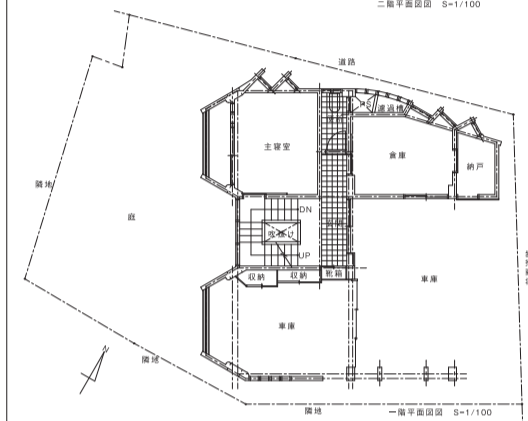
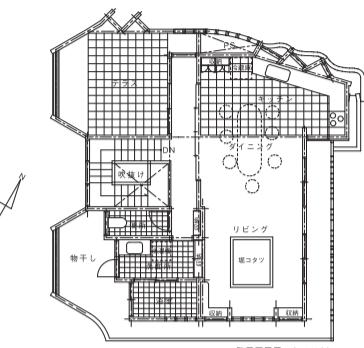
優良
売り物件
あります

沖縄県知事(2)4087号 沖縄県浦添市城間1-8-19 2F

カミヤプロデュース

tel.098-870-7777

- 3階キッチンが躯体形状に合わせた変形のL字形、壁一面をメキシコから取り寄せたタイルでまとめ、床にはテラコッタタイルを施工
- 2階トイレ、ピンクに着色した漆喰壁が印象的。床には石目調のテラコッタタイルを貼る。鏡や照明もこだわりのアイテムをそろえました
- 息子のガールフレンドを交えてリビングで団らん。写真手前の木製テーブルが置かれた場所は掘りこたつになっています
- 2.5階にある主寝室。「自由に着色できる点も、仕上げ材に漆喰を選んだ理由の一つ」とAさん。3つの個室は漆喰の色に変化をつけています
- キッチン隣接のテラス。右手前に見える引戸をはじめ、風雨の影響を直接受けない場所は木製の戸を採用しています



DATA

家族構成：夫婦
所在地：北谷町
設計：一級建築士事務所アトリエガイイ
(担当/佐久川一、佐久川達美)
敷地面積：211.82㎡(約64.07坪)
建築面積：91.21㎡(約27.58坪)
延床面積：176.51㎡(約53.39坪)
構造：混構造(RC造+木造)3階建て
用途地域：第一種中高層住居専用地域
完成時期：2003年5月
建築/有限会社イシケン
電気/丸元電気工事
水道/三菱設備工事
キッチン/有限会社モブ

に、最も高い位置にある東側接道面に駐車場と玄関を配置。そして崖下にあるような、最もレベルの低い場所を1階に、生活の中心になるLDKは眺めの良い3階に置き、各階をつなぐ階段回りを吹き抜けにして開放感を高めるとともに、効率的な空間の使い方を考え、各階の途中にスキップ状の個室を設けました。

木造屋根に包まれた大空間と遊び心いっぱいの素材使い

3階LDKの広さは約30畳。構造躯体をコンクリート造にする一方で、頭上に架かる屋根を木造にしたのは、Aさんの好みとご家族の気質に合っているからとのこと。佐久川さんの提案によるもの。天井は張らずに架構を現し、無垢材の床、木製引戸、漆喰仕上げの壁などと合わせて、ぬくもりある空間を演出。リビング上部だけは「いずれロフトを増設できるように」と梁を多めに設けました。

デザインを見れば、それも一つの材料の使い方を見れば、さらに遊び心がいっぱいです。壁一面を特注のメキシコ産タイルでまとめたオリジナルキッチン、漆喰壁とテラコッタタイ

ルの雰囲気マッチした奥さまお気に入りの2階トイレ、アジアの雰囲気を感じさせる木製引戸の格子パターン、等々。好奇心旺盛でチャレンジ気質にあふれたAさんらしさ、チャンプルーという言葉に象徴される北谷の町らしさが随所に表れています。

そんなこだわりやワクワクが詰まったわが家で暮らし始めて、はや15年がたちました。当初は「住みこなすのが大変かも」と思ったものの、不便さを感じたことは一度もなし。家族みんなで、はたまたま親類・友人らを招いてワイワイ楽しむのが大好きなお2人にとってのびのび使える3階は最高の空間。とりわけキッチン脇の眺望テラスはバーベキューなどで大活躍してきましたが、近頃は木製のパーゴラやテーブルセットの傷みが目立ち、「そろそろ手直ししなければ」と思案中です。

他に大きく変化した点はなく、むしろ徐々に変わってきたのは、子どもたちの成長・独立に伴ってご夫妻のライフスタイルです。これからもAさんの暮らしに呼応しながら、歳月の経過とともに、建築としての風合い・風格を増していくことでしょう。



1.ファサード。駐車場のある東側接道面が2階にあたり、右手北側には急勾配の坂が下っています。見る方向によって趣が異なり、北側の外壁は花ブロックと連続したガラス窓で表情豊かに、東側3階ベランダには、木材で独特のパターンを組んでアジアンテイストに、屋根に頂いた赤瓦も全体の雰囲気とマッチしています

2.1階と3階をつなぐ吹き抜け階段。家中のほとんどの漆喰壁はペーージュがベースカラー。琉球ガラスのシェードを使ったオリジナルの照明と、ガラスブロックを並べた採光窓のバランスも絶妙

高低差の激しい敷地形状を生かす工夫が個性的なプランにつながる

急坂が続く北谷町東部エリアの中でも、Aさん宅があるのは、坂道をほぼ登り切った北東角地。文字通りに見方を変えて坂下に目をやれば、西海岸一帯の見事な眺めが広がります。ご主人は結婚後間もない頃から、将来を見越してこの土地を購入していました。仕事でも生活でも人と同じことをしていても面白くないが信条の一つとあって、家づくりの場面ではなおさら、「自分たちの個性を自由に表現したい」との意欲・要望が高まってきました。そのため設計者探しでもまず求めたのは、「私たちの考え方をきちんと受け止めて、それを建築的に昇華させてくれること」。やがて情報を集めてい

第621回 北谷町Aさんの家

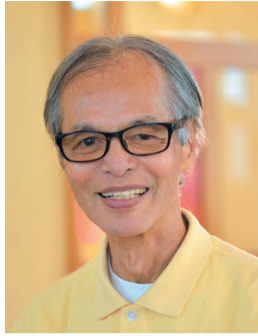
こんな家に住みたい

5層3階建ての混構造住宅 築15年後も暮らし生き生き

15年前、北谷の町で生まれ育ったAさんご夫妻は、「自分たちの個性を自由に表現した、自分たちにしかつくれない家を」目指して計画に着手。建築士と二人三脚でアイデアを練り、北谷の町らしさをも象徴するオリジナリティー豊かな住まいを新築しました。その後はじつくりと家族の思い出を育み、「4人の子どもたち全員成人し、今では夫婦2人である時間が多くなっ」というAさん宅を訪ねました。

るうちに、建築家・佐久川一さんと出会い、ものの見方や建築に対する姿勢、実際の作風に共感。木や漆喰など自然素材を多用した設計スタイルも気に入って、依頼を決めました。

自由な発想で佐久川さんとアイデアを出し合い、佐久川さんの感性というフィルターを通して出てきた提案をもとに、オリジナリティー豊かな家を目指す。とはいえ、奇抜なデザイン、特殊な間取りを望んだわけではなく、自身の生活スタイルに合ったプランを形づくる中で「いかに遊べるか」を追求しました。例えば2つのスキップフロアを持つ5層構造の3階建て、という独特の立面計画にしたのは、急斜面に沿ってあり高低差の激しい敷地形状に合わせるため。「あるがままの土地の形を生かし、車3台分の駐車スペースを用意したい」との要望をもと



生活スタイルの変化を許容し、豊かな家庭、生きる知恵を育む「養の家」

町の風土と施主の気質をもとに設計の方向性を決定
多岐にわたる興味・関心が家づくりの世界観を広げる

建築家：佐久川一さん談



1. ダイニングで歓談。家具も工芸家に特注したり、好みの意匠を探してきたり、細部までデザインにこだわりました。頭上に架かる梁のV字形の組み方は独自の設計。金具が露出しないように収めるなど見せ方にも配慮しました
2. 2つの子ども室は1階と1.5階に配置。窓からは庭を眺められます
3. 2階玄関ホール。半透明のガラスから差し込んだ柔らかな光が吹き抜け全体に満ちあふれています
4. 3階ベランダ。大人一人分ほどの幅ですが、頭上に庇を出して雨風を軽減

北谷という町に根付いた歴史や文化、そこで生まれ育った人の気風、といった要素を私なりに建築語に翻訳して、まとも上げた住宅作品です。施主のAさんはご夫妻ともに北谷町出身で郷土愛が強く、人柄がとてもオープンである上に進取の気性に富み、私が考える「北谷の人らしさ」を体現したような方。案内された土地も、起伏が激しい急斜面地の頂から、時代とともに移ろいゆく町の姿を見守ってきたような「北谷らしい」場所にありました。そしてAさんご自身からの要望として、「自分たちの個性を自由に

表現していく中で、意外性のあふれる思わぬ発見にも出会いたい」と話が合ったため、「どんなスタイルの家でも住みこなしてしまう度量がある」と判断し、この風土が脈々と培ってきた「チャンプルーの精神」を設計の軸に据えようと方向性を定めました。

一方で、Aさん一家のパーソナルな側面に焦点を絞ると、親子そろって行動がパワフルで好奇心旺盛であるがゆえに、今後の生活スタイルの変化を許容し、ふと立ち止まったときに自分たちの原点は何だったのか、いつでも初心を確認できる

ようなプランづくりを目指しました。15年前の新築直後に発表したときのタイトルは「養の家」。豊かな家庭、親子関係、人生に対する洞察などを養える住まいになってほしいという思いを込めました。

いつも設計に取りかかる前には、趣味や行動様式、気質・体質に関する質問などをご家族全員に細かく尋ね、生活調書を作成します。そこで得たデータをもとに家づくりのテーマを導き出し、提案・検討を重ねていくのですが、例えば今回の構造面で、コンクリートの躯体に木造屋根を架け、天井を現し特殊な架構を採用したのも、その調書がベースになっています。

またAさんは考え方が柔軟で決断も早い一方で、好みと関心が多岐にわたり、普段は決まらずに出会わないような素材・デザインを使う機会を与えてくれました。一人机上で悩んでいるだけでは到底考えつかないアイデアを提示され、仕事の世界観を広げられることは、設計者としての醍醐味です。

家づくりのヒント

一級建築士事務所
アトリエガイ

宜野湾市真志喜3-21-11 TEL.098-897-1379
<http://www.atelier-gaii.com/>
e-mail. gaii@soleil.ocn.ne.jp

素材・様式が混在したチャンプルーな空間は時代を先駆けるユニバーサルデザイン

チャンプルーにはセンスが必要です。そのセンスは変化への対応力と、新しさを生み出す原動力をも養います。Aさん宅では、方位・見る角度によって表情が異なるファサードをはじめ、沖縄・日本本土・アメリカ・アジア・メキシコ・南欧などを象徴する多彩な素材・様式が混ざり合い、一つの空間に溶け込んでいます。

